

第35回 平日の午後のコンサート

2024.9.4(水) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
Wed. Sep. 4, 2024, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

第23回 渋谷の午後のコンサート

2024.9.8(日) 14:00開演 Bunkamura オーチャードホール
Sun. Sep. 8, 2024, 14:00 at Bunkamura Orchard Hall

〈心躍らせたあの曲との再会〉

〈Reunion with those great songs that stirred my heart〉

指揮とお話 尾高忠明 Tadaaki Otaka, conductor & speaker

ヴァイオリン 竹内鴻史郎* Koshiro Takeuchi, violin

コンサートマスター 三浦章宏 Akihiro Miura, concertmaster

スッペ：喜歌劇『軽騎兵』序曲（約7分）

Suppè: Overture to operetta "Die leichte Kavallerie" (ca. 7 min)

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ（約7分）

Ravel: Pavane for a Dead Princess (ca. 7 min)

マスネ：タイスの瞑想曲*（約5分）

Massenet: Meditation from "Thais" (ca. 5 min)

サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン*（約8分）

Sarasate: Zigeunerweisen (ca. 8 min)

— 休憩 intermission —

エルガー：弦楽セレナード（約12分）

Elgar: Serenade for Strings (ca. 12 min)

エルガー：行進曲『威風堂々』第4番（約15分）

Elgar: Pomp and Circumstance March No. 4 (ca. 5 min)

エルガー：行進曲『威風堂々』第1番（約8分）

Elgar: Pomp and Circumstance March No. 1 (ca. 8 min)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））| 独立行政法人日本芸術文化振興会

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council

協力：Bunkamura (9/8) / In Association with Bunkamura (Sep. 8)

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために ♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

9/4

平日の
午後の「コンサート」

9/8

渋谷の
午後の「コンサート」

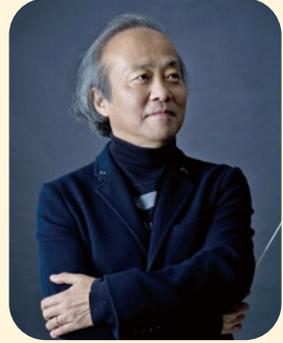
出演者プロフィール

指揮とお話 **尾高忠明**

Tadaaki Otaka, conductor & speaker

東京フィルハーモニー交響楽団 桂冠指揮者

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラに客演。1991年度サントリー音楽賞受賞。1997年には英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。その他1999年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与されたほか、1993年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号、2012年有馬賞（NHK交響楽団）、2014年北海道文化賞、2018年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、日本放送協会放送文化賞、2019年第49回JXTG音楽賞洋楽部門本賞等を受賞。現在NHK交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団桂冠名誉指揮者。また複数の大学で後進の指導を積極的に行っている。



©Martin Richardson

ヴァイオリン **竹内鴻史郎**

Koshiro Takeuchi, violin

2005年生まれ。2023年、ロン＝ティボー国際音楽コンクール第3位、第57回パガニーニ国際ヴァイオリンコンクールにて第5位併せてアマチディパガニーニ協会賞、エンリコ・コスタ博士記念賞を受賞。同年8月にはサントリーホール大ホールにて「今井信子傘寿記念演奏会」に出演し、山田和樹氏指揮の下、今井信子氏と共演し好評を博した。原田幸一郎、神尾真由子の両氏に師事。現在マンハッタン音楽学校クラシック・ヴァイオリン演奏科にフルスカラシップ生として在籍、併せて東京音楽大学アーティストディプロマコースに在籍。2024年度ヤマハ音楽支援制度奨学生。



プログラム・ノート

解説=飯尾洋一

心躍る「往年の名曲」を味わうひととき

本日のマエストロ、尾高忠明はかつてBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団首席指揮者（現在は桂冠指揮者）を務めるなど、イギリスと縁の深い指揮者です。イギリスの音楽界への貢献により1997年にエリザベス女王より大英勲章CBEを授与され、1999年には英国エルガー協会から日本人初のエルガー・メダルを授与されました。おそらくマエストロほどイギリス音楽をたくさん指揮してきた日本人指揮者はいないのでは。なかでも得意とするのが、イギリスを代表する作曲家エルガー。本日はエルガーの名曲が後半に演奏されます。

プログラムの前半には、スッペ、ラヴェル、マスネ、サラサーテといった多彩な作曲家による珠玉の小品が並びます。特にスッペの『軽騎兵』序曲やサラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」は、レコードの時代から人々に愛聴されてきただけあって、「往年の名曲」と呼びたくなるような懐かしさを漂わせます。心躍らせる名曲との再会をお楽しみください。

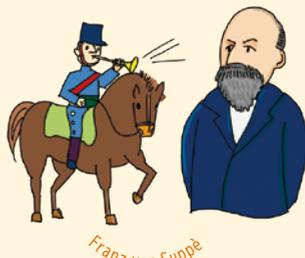


レコードの時代から愛聴されてきた名曲をマエストロ尾高のトークとともに楽しみください

©寺司正彦

輝かしく勇壮な金管楽器の響き

オペラ(歌劇)よりも、もっと大衆的で軽妙な作品がオペレッタ(喜歌劇)。**フランツ・フォン・スッペ**(1819-1895)はオペレッタの分野で大成功を収めたオーストリアの作曲家です。残念ながらスッペのオペレッタの多くは忘れられてしまいましたが、現在でも『**軽騎兵**』序曲や『**詩人と農夫**』



序曲はよく知られています。特に『**軽騎兵**』序曲はテレビCMや映画などで使われることも多く、また小学校の音楽の授業で観賞用教材として使われていたため、耳なじみのある方が多いのではないのでしょうか。

曲は輝かしく勇壮な金管楽器のファンファーレで開始されます。これに弦楽器によるスピーディなパッセージが続き、やがて馬のギャロップ調の金管楽器のテーマが登場します。このテーマが盛大に奏でられると、気分は一気に最高潮へ。弦楽器のメランコリックなテーマをはさんで、ふたたびギャロップが戻り、最後に冒頭のファンファーレが帰ってきます。

優美な旋律から薫る淡いノスタルジー

パヴァーヌとは16～17世紀初期に広まった、ゆっくりとした宮廷舞踏のこと。フランスの作曲家**モーリス・ラヴェル**(1875-1937)は、1899年にピアノ独奏曲として『**亡き王女のためのパヴァーヌ**』を作曲し、1910年に同曲をオーケストラ用に編曲しました。



曲名からは、だれか特定の王女を悼んで書かれた曲のように思えますが、そうではありません。ここで想定されているのは、パヴァーヌが流行していたくらい遠い昔の王女様。ラヴェルはしばしば古い時代の文化に共感を寄せていま

した。この曲もそんなラヴェルの古典回帰的な発想から生まれた作品です。穏やかで優美な旋律から淡いノスタルジーが漂ってきます。

ラヴェルはこの曲が過度に遅いテンポで演奏されることを嫌い、こんなふうには語っていました。「死んでいるのは王女であって、パヴァーヌではない」。ゆっくりとした曲であっても、踊りの要素を忘れてほしくなかったのでしょうか。

清らかなヴァイオリンの旋律

フランスの作曲家 **ジュール・マスネ** (1842-1912) は、パリで大きな成功を収めたオペラ作曲家です。1894年に初演されたオペラ『タイス』は、アナトール・フランスの小説を原作とした古代エジプトを舞台にした物語。若く敬虔な修道僧アタナエルが遊女タイスを侮らせ信仰に導くものの、逆にタイスの虜になってしまい、信仰と欲望の間で引き裂かれる様子が描かれます。



現在ではオペラ『タイス』が上演されることはまれですが、劇中に使用される「**瞑想曲**」はヴァイオリンのための名曲として広く親しまれています。のびやかなヴァイオリン独奏のメロディは、タイスが心を改めて清らかな境地へと到達したことを表しているのでしょうか。同時に、この甘美さはアタナエルの愛を示唆しているのかもしれませんが。ふたりの心情は聖と俗の間をすれ違い、最後まで結ばれることはありません。

悲劇的な調べからスリリングな展開

パブロ・デ・サラサーテ (1844-1908) はスペイン出身のヴァイオリニスト、作曲家。ヨーロッパのみならず、南北アメリカにも演奏旅行で訪れ、世界的な名ヴァイオリニストとして名声を博しま



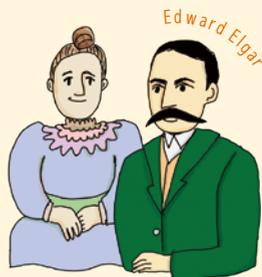
した。完璧な技巧と甘美な音色を誇り、どんな難曲でもいとも簡単に弾いてしまったと伝えられています。サン＝サーンス、ラロ、ブルッフなど、同時代の作曲家たちはこぞって作品をサラサーテに捧げました。

サラサーテ自身も多数のヴァイオリン曲を残しています。なかでも有名なのが「ツィゴイネルワイゼン」。曲名は「ロマ(ジプシー)の調べ」といった意味で、ハンガリーの民俗音楽が素材に用いられています。

悲劇的に開始される冒頭部分はインパクト抜群。テレビ番組などのBGMにもよく使われます。メランコリックな前半から、後半は活発でスリリングな音楽に転じ、ヴァイオリンの華麗な技巧が発揮されます。

気品と詩情にあふれる弦楽の響き

イギリスを代表する作曲家**エドワード・エルガー**(1857-1934)には愛妻家のイメージがあります。エルガーがまだ無名の作曲家だった頃、ピアノの生徒でもある8歳年上のアリスと結婚します。アリスは名家の出身だったため、アリスの親族は強く反対しましたが、ふたりは自分たちの意志を押し通して結婚にこぎつけました。エルガーは婚約記念として名曲「愛のあいさつ」をアリスに贈りました。



そして、1892年、3回目の結婚記念日にエルガーがアリスに贈ったのが、この**弦楽セレナード**です。いまだエルガーは真の名声を獲得していませんでしたが、作品にはすでに後の成功を予感させる成熟度が感じられます。

曲は3つの短い楽章から構成されます。**第1楽章**はアレグロ・ピアチェヴォーレ、**第2楽章**はラルゲット、**第3楽章**はアレグレット。全編にわたってエルガーならではの気品と詩情があふれています。

英国的な高貴さを感じさせるエルガーの代表作

エルガーの音楽には英国的な高貴さが感じられるとよく言われます。そんなエルガーの特徴は代表作である行進曲『威風堂々』からもうかがえます。「威風堂々」とは、周囲を圧倒するような威厳にあふれた様子をあらわす言葉。シェイクスピアの『オセロ』に登場するセリフの一節「Pomp and Circumstance」に由来しています。

行進曲『威風堂々』には第1番から第6番(未完)までの6曲がありますが、今回はそのうち2曲が演奏されます。

『威風堂々』第4番は軽快で明るい調子の行進曲。中間部には気品のあるのびやかなメロディが登場します。最後は中間部のメロディに冒頭のメロディが重なって華やかに曲を閉じます。

そして、もっともよく演奏される『威風堂々』第1番が続きます。晴れやかでリズムミカルな冒頭部分に続いて、この曲でもやはり中間部ではゆったりとして格調高いメロディが奏でられます。このメロディの別名は「希望と栄光の国」。学校の卒業式など、式典のBGMとしてよく使われる曲です。また、サッカーの応援歌としても世界中で親しまれています。



いいお・よういち(音楽ジャーナリスト)／著書に『クラシック音楽のトリセツ』(SB新書)、『R40のクラシック』(廣済堂新書)、『マンガで教養 はじめてのクラシック』監修(朝日新聞出版)、『クラシックBOOK』(三笠書房)他。雑誌やウェブ、コンサート・プログラム等に幅広く執筆する。テレビ朝日「題名のない音楽会」他、放送でも活動。

お客様の質問募集中!

2024シーズン 次回の **午後のコンサート**



第24回 渋谷の午後のコンサート
11月4日(月・祝) 14:00開演
Bunkamura オーチャードホール



第36回 平日の午後のコンサート
11月8日(金) 14:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

〈なんでもOKストラ!!〉

指揮とお話: 円光寺雅彦

ピアノ: 清塚信也*

ショパン/ピアノ協奏曲第1番*

スメタナ/歌劇『売られた花嫁』序曲
(スメタナ生誕200年)

チャイコフスキー/バレエ組曲『白鳥の湖』より



円光寺雅彦

清塚信也

©上野隆文

©Yuji Takeuchi

円光寺雅彦/桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を齋藤秀雄氏、ウィーンでオトマル・スウィトナー氏に師事。東京フィル指揮者、仙台フィル常任指揮者、札幌正指揮者、名古屋フィル正指揮者を歴任。N響、読響、東京フィル、新日本フィル、大阪フィルをはじめほとんどの国内オーケストラ、海外ではブラハ響、BBCウェールズ響、ベルゲン・フィル、プルトーニュ管弦楽団などに客演。テレビ等の番組にも定期的に出演など、幅広い活躍を続けている。

清塚信也/5歳よりクラシックピアノの英才教育を受け、桐朋女子高等学校音楽科(共学)を首席で卒業後、モスクワ音楽院に留学。国内外のコンクールで数々の賞を受賞。人気ドラマ『のだめカンタービレ』で玉木宏演じる「千秋真一」の吹き替え演奏を担当、映画『さよならドビュッシー』で俳優デビュー。映画、舞台、TVドラマ等で劇中音楽を手掛けるなど、作曲家として活動の幅を広げるほか、ピアニストとして次々と新しいフィールドへの挑戦を続け、常に話題と注目を集めている。



第103回 休日の午後のコンサート
10月14日(月・祝) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

〈クラシックの車窓からII〉

指揮とお話: 角田鋼亮 チェロ: 鳥羽咲音*



©Hikaru Hoshi

©Julia Wesely

オッフェンバック/歌劇『天国と地獄』序曲

ウェーバー/歌劇『オベロン』序曲

グルダ/チェロ協奏曲より*

E. シュトラウス/ポルカ・シュネル『蒸気をあげて』

J. シュトラウス/鍛冶屋のポルカ

E. シュトラウス/ポルカ・シュネル『テープは切られた』

ヴェルディ/歌劇『アイダ』より凱旋行進曲

J. シュトラウスII/ポルカ『観光列車』

お申込み・お問合せは
東京フィル
チケットサービスまで

03-5353-9522 (平日10時~18時/土日祝休
発売日の土日祝は10時~16時営業)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

